

# 宮崎兄弟資料館だより

第10号 2019/03/31

## 第30回孫中山・宋慶齡紀念地連席会議 に出席しました

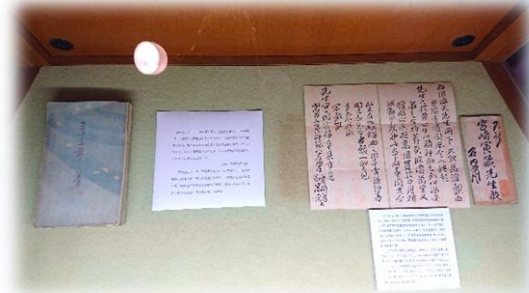


神戸市、孫文記念館・移情閣 記念撮影（11月29日撮影）

平成30年11月27日～29日、荒尾市長を代表とする荒尾市訪問団は「第30回孫中山・宋慶齡紀念地連席会議」に参加するため、神戸市にある中国の革命家・孫文を記念する日本で唯一の博物館・孫文記念館（移情閣）を訪問しました。



宮崎兄弟について講演する浅田市長



特別展に荒尾市から出品した『三十三年の夢』（初版）と毛沢東の手紙（複製）

今会議では、基調講演とパネルディスカッションに一般の方も参加できるようになっていたため、会場には多くの地元市民をはじめ、神戸中華同文学学校の学生たちも参加しており大盛況でした。パネルディスカッション「日本の孫文ゆかりのミュージアム」で、浅田市長は孫文の革命活動における宮崎兄弟の役割について講演し、世界各地の孫文記念館及び一般参加者に彼らの功績を発信しました。また、移情閣で行われた特別企画展には、宮崎滔天の自叙伝「三十三年の夢」と毛沢東が滔天に宛てた手紙を資料提供しました。さらに、「基本協定書」を調印しているシンガポール孫中山南洋紀念館・晚晴園とも共同報告書の発刊イベントについて協議を行いました。



晚晴園スタッフと9月の記念イベントについて協議。国際交流員のタンさんのおかげで協議もスムーズに！



# 神戸孫文記念館・愛新館長、西村副館長が来館

3月27日（水）、神戸孫文記念館の愛新館長と西村副館長が宮崎兄弟資料館に来館されました。孫文記念館には、これまで「日中友好の朝顔」寄贈や、個人の方が所蔵されていた宮崎八郎の書簡史料を当市に寄贈いただくにあたっての協力、またシンガポール孫中山南洋記念館・晩晴園との交流のきっかけを提供していただくなど、さまざまな協力をいただきました。今回の来訪は、平成30年11月に神戸孫文記念館で開催された特別展に当市から史料を出品していたことに対するお礼として実現したものです。



## 荒尾市内で広がる日中友好の輪 — 「日中友好の朝顔」が市内小中学校ですくすくと —

荒尾市教育委員会では、市内の子どもたちに幼いころから宮崎兄弟と中国の革命家・孫文の友情の歴史に触れてもらおうと、平成28年度から「日中友好の朝顔」を市内の小中学校に配布する取組みを行っています。この朝顔は、清王朝の末裔である愛新覚羅溥傑（あいしんかくら ふけつ）・浩（ひろ）夫妻が北京の自宅にて大切に育てたとされる朝顔の種を、平成26年に神戸の孫文記念館から頂き、宮崎兄弟の生家施設で育ててきたものです。毎年鮮やかなピンクで白覆輪（ふくりん）のめずらしい花を咲かせ、生家を訪れる人の目を楽しませています。平成30年度も市内の小中学校全校で実施していただきましたので、その成果の一部をご紹介します。



府本小

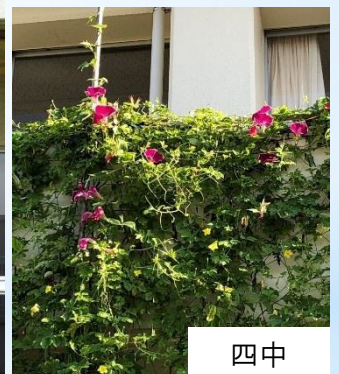


桜山小

府本小と桜山小で咲いた朝顔。きれいにピンク色と白覆輪が出ています！



三中



四中

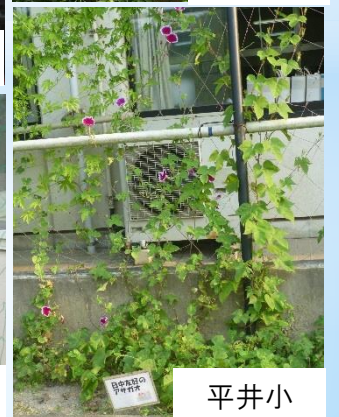


清里小

清里小の朝顔はなんと紫色！アジサイのように、土の酸性度によって花の色が変化するのでしょうか…？



八幡小



平井小

平井小、八幡小、三中、四中では、グリーンカーテンとして活用してもらいました♪



・ 11/3 (土) JR九州ウォーキング

心地よい秋晴れのなか、今年もJR九州ウォーキングのコースの一つとして、約130人の方が宮崎兄弟の生家施設に来場されました。



・ 12/6 (木) 第54回滔天忌俳句大会



今年には95名が参加し、360句の投句がありました。栄えある「天賞」に輝いたのは、平川みどりさん(南関町)の「滔天のやうな男と炉を囲む」。大会選者の服部たか子先生(「光円」主宰)からは「目の前の男性の熱い語り草。まるで宮崎滔天のようだと聞き入る。滔天のような男性はどんな夢を語られたのだろうか。色々想像が膨らむ。囲炉裏の火は彼らの頬を照らす。」との選評。俳句の奥深さを感じる一日となりました。



「天賞」を受賞した平川さん(左)と浅田市長(左)

・ 1/25 (金) 第65回文化財防火デー 防火訓練

今年も荒尾消防署の協力を得て文化財防火デーに合わせた防火訓練を実施しました。本番さながらの訓練に緊張しながら、万一火災が発生した際に初動を適切に行えるよう、消火器や放水銃を使用する訓練を行いました。



・ 3/23 (土) ~ 3/24 (日) 第9回 春のいけばな展

少し風が冷たかったものの両日ともお天気に恵まれ、二日間で171名の方がいらっしゃいました。二日目のいけばな体験では高さや遠近感を使って花を見せる方法など、華道会の先生方からアドバイスを受け、3歳から70代まで幅広い世代の方が参加されました。



☆荒尾市宮崎兄弟顕彰基金への寄附のお願い☆

荒尾市では「荒尾市宮崎兄弟顕彰基金」を設置し、宮崎兄弟の生家施設の維持管理や、宮崎兄弟の顕彰事業に活用しています。世界に誇ることができる荒尾の偉人の歴史を次代に継承していくため、寄附に御協力をお願いいたします。



ご協力をお願いします!

みやじゃっきとーてん

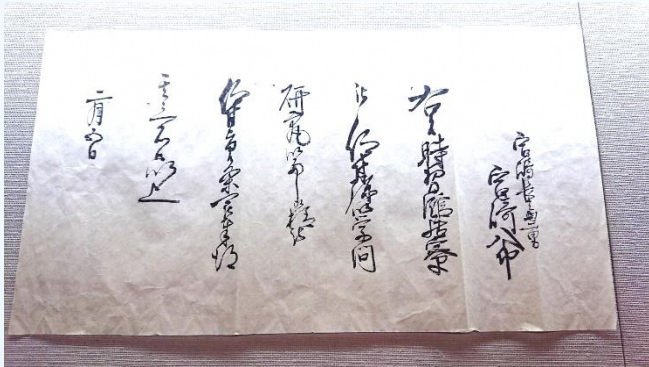


## 資料紹介⑨

### 時習館居寮生仰付

(1869(明治2)年2月5日付)

1865年、八郎は荒尾出身の実学派で藩校・時習館の訓導でもあった月田蒙斎の推挙を受けて時習館に入学した。そしてその4年後の1869年、八郎は、藩費で将来の幹部を養成する時習館の特待生制度の「居寮生」に抜擢された。このことは、藩士の子弟と士席以下の出身者とで昇級に相当な格差があった当時において異例のことであった。(所蔵：宮崎明氏)



## 書籍紹介②

### 渡辺京二『評伝 宮崎滔天』

(1975年、〔新版〕2006年)

『宮崎滔天全集』を徹底的に読みこみ、宮崎滔天の生涯を通観した著作。滔天を、一般的な「行動の人」「豪傑な風貌」といったイメージや評価に基づく「侠の生涯」という理解ではなく、「鋭敏な知人」「内省と瞑想への傾向を若年のうちから深く蔵した」「デリケートな感受性をもった芸術家的資質の人間」と措定し、彼の52歳の生涯を、熊本協同隊員のなれのはて、彼らの「志」のつとめた「狂」の形相であると評価する宮崎滔天研究の基本文献。



『評伝 宮崎滔天』(左)と渡辺氏が解説した『宮崎滔天 滔天文選』(右)。

## 施設紹介⑤

### 香港孫中山紀念館

20世紀初頭、西欧列強の中国進出を支援した香港商人・何甘棠(かきんとう、ジャーディンマセソン商会の中国商人)によって建てられた屋敷。2004年に香港特別行政区に譲渡され、2006年に改修を経て「香港孫中山紀念館」として一般公開されました。2010年、荒尾市は当館を訪問し、1913年に孫文が来荒した際に撮影された写真の記念パネルを贈呈しました。



写真提供：香港孫中山紀念館

### <今後の予定(4月1日～)>

- ・第6回牡丹文芸・美術展(4月9日～5月12日)
- ・牡丹茶会(4月20日)
- ・宮崎兄弟の生家いけばな展(6月1・2日)
- ・第42回夏休み少年少女俳句教室(荒尾市俳句協会主催、7月下旬～8月上旬)
- ・第14回 音と光の祭典(一小校区元気づくり委員会主催、月日)

皆様の御来館をスタッフ一同、心よりお待ちしております！

※詳細については荒尾市教育委員会(☎0968-63-1681)までお問合せください。

### ～次号予告～

次回の「宮崎兄弟資料館・館報」11号は、2019年10月に発行予定です。

内容は、

- (1) 生家だより No.11
- (2) 資料紹介⑩
- (3) 施設紹介⑥
- (4) 書籍紹介③

を予定しております。その他、掲載内容について何かご意見・ご要望があれば、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail : [culture@city.arao.lg.jp](mailto:culture@city.arao.lg.jp)

(担当：野田【荒尾市教育委員会】)